

福勝院はどこに？

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 調査区南半 鎌倉時代の遺構全景(西から)

はじめに 吉田神社や京都大学吉田キャンパスがある吉田地域は、平安時代後期頃から開発が進み、天皇や上皇・皇族の御所や寺院などが建ち並ぶ白河街区の一画として栄えていました。白河街区の南部では、法勝寺をはじめとして寺院や御所などが発掘調査により確認され、その姿が少しずつ明らかになってきています。一方、白河街区の北部がどのような姿をしていたのかについては、いまだに不明瞭な部分が多く、はっきりとわかっていません。今回、史料から白河街区の北部にあったとされる「福勝院」推定地である京都市立近衛中学校で2020年7月から12月

まで発掘調査を行ないました(写真1)。

福勝院とは 福勝院は、藤原泰子(高陽院、藤原忠実の娘、鳥羽

天皇の皇后)の御願寺として、仁平元年(1151)に建立された寺院です。藤原泰子は仁平5年に土御門殿で崩御し、福勝院で供養され

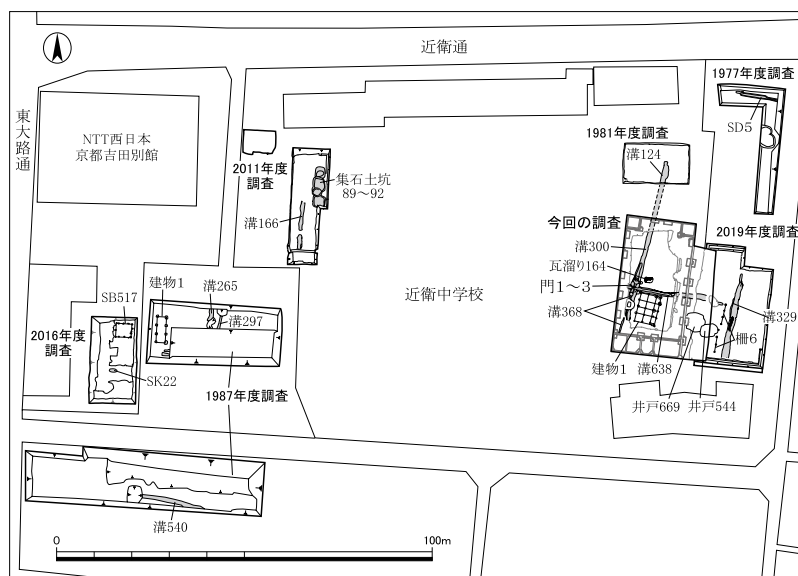


図1 調査地点位置図

ます。この葬列の行程が『兵範記』^{ひょうはんき}に記されており、福勝院の敷地が近衛大路末の北側に位置していることがわかっています。また、明治時代に書かれた『京都坊目誌』には、福勝院について「字一町が辻西南の地也、古へ方一町の所とす」とあり、現在の吉田寮一带および近衛中学校の字名が「一町が辻」であることから、今回の調査地周辺が福勝院の跡地と推定されるようになりました。ただ、福勝院の正確な位置や規模はよくわかっておらず、未知な部分が多く残っています。

福勝院推定地での調査 これまで、福勝院推定地での調査は何度か行なわれています（図1）。しかしながら、寺院の伽藍と考えられる遺構や、福勝院に直接結び付けられる遺構は見つかっていません。というのも、建立の時期にまで遡る遺構・遺物が確認されていない

からです。

今回の調査で見つかった遺構は、総柱の建物1棟、門3棟、南北方向の溝2条、東西方向の溝1条、井戸2基、瓦を捨てた穴などです（写真2・3）。建物や門・溝は北に対して東に10～15度振れています。一方で白河街区の造営方位は、六勝寺などの調査で確認されている側溝や築地塀などから、北に対して0.3～0.5度東に振れることがわかっており、方位が大きく異なります。門や溝などが造られる前に、大規模な砂取の痕跡と考えられる土坑も多数検出していますが、時期は平安時代末期から鎌倉時代初頭になります。その他の周辺の調査でも鎌倉時代以降の遺構しか見つかっていません。以上の点から、近衛中学校が福勝院の跡地とは考えにくいのです。

しかしながら、調査では瓦が一定量出土していることから、周辺

に瓦葺きの建物が存在していたと推測することができます。当時は瓦を用いる建物は、ほぼ仏堂に限られていました。白河街区には六勝寺をはじめとした寺院が数多く存在していることから、近衛中学校周辺にも寺院に類する施設があったと考えることができます。

おわりに それでは、福勝院の位置はどこなのでしょう。やはり最大のヒントは『兵範記』の福勝院が近衛大路末の北側に位置している、という記述と『京都坊目誌』の記述でしょう。しかしながら、近衛大路末がどこに位置しているのかは今でもわかっていません。福勝院の位置についてもう一度考え直す必要がありそうです。まだまだ福勝院を含め白河街区の北部に関してはわかっていないことが多く、これからの調査に期待しています。

（松永修平）



写真2 南北方向の溝（北から）



写真3 瓦の出土状況（北東から）